



スロバキア便り

コシシエ州立劇場のバレエ団からのレポートです。

10月21日、振付家イリ・ブベニチェクによるコンテンポラリーバレエ「PROCES」の初演がありました。本作品はフランツ・カフカの小説「審判」が元になっており、突然理由を知らされずに逮捕された男 ヨーゼフ・Kが、刑に処されるまでを描いた物語です。

リハーサルを行うにあたり、振付家イリ・ブベニチェク、彼の奥様で本作品の衣装を手懸けたナディナ・コジョカル、そして2019年に本作品の初演がスウェーデン王立バレエ団で行われた際に主役を踊られたアルセン・メフラビアンが劇場にいらっしゃって、約2ヶ月間ご指導くださりました。

リハーサルでは常に素晴らしい手本を見せてくださり、また細かい手足の通り道や自然な演技などについて、とても丁寧にご指導くださいました。

特に、「演技をするのではなく、その役になる」こと、「過去と未来の失敗を考えて不安になるのではなく、舞台上に立っている"今"に集中する」ということの大切さをよく話されていたのが、強く印象に残っています。

主人公であるヨーゼフ・Kと恋に落ちるレーニは、ヨーゼフ・Kが本作中盤で訪れる弁護士の女中であり、ヨーゼフ・Kを誘惑したかと思えば、次のシーンでは別の男性と過ごしているといったような、少し性悪な女性です。

レーニの衣装には仕掛けがあり、スカートの前側の切れ込みと腕がゴムで繋がっていて、手を広げるとスカートが開く仕組みになっています。手を広げスカートを開く仕草が、男性を誘惑する様子を表しており、とても斬新なアイデアだと思いました。

作中ダンサーがセリフを話したり、笑ったり、叫んだり、歌ったりと見所が多く、客席からは時々笑い声も聞こえてきました。原作は難しい内容でありながら、とても楽しめる作品となっており、お客様が大変気に入ってくださったのが嬉しく思います。(レポート田中雛羽)

Choregraphy: Jiří Bubeníček

Costumes: Nadina Cojocar

Stage design: Otto Bubeníček

Photo: Joseph Marčinský



